

福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科  
カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)

本研究科では、学位授与の方針で示す 21 世紀の学校教育を支える教師の資質能力を培うために、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

### 1. 教育課程の編成の方針

21 世紀の学校教育を支える教師の資質能力を培うために学校拠点の省察的実践の長期漸成サイクルとその交流共有をコアとし「理論と実践の融合」を実現する以下のような総合的長期的なプロジェクト研究中心の有機的教育課程を編成する。

学び合うコミュニティに公教育改革の支援システムを融合させた「学校拠点方式」により実践とその省察を深め、教育における「実践の中の知」の理論生成を推進する「学校における実習」と「協働実践研究プロジェクト」・「カリキュラム開発基礎研究, 実践研究」を中心に共通科目とコース別選択科目を連動させる教育課程を編成する（コア・カリキュラム）。また、教職キャリア段階（ラダー）の課題に応じながら教職専門性開発を生涯にわたって継続するための資質能力を育むために、世代継承生成サイクルの視点にもとづく教職専門性の 4 つの資質能力を培う教育課程を編成する。

- ① 学習と成長を支えるファシリテーター・コーディネーターとしての実践力
- ② 学習の協働組織とその改革のマネジメント力
- ③ 実践の質を不断に高め発展させていく省察・研究能力
- ④ 公教育としての学校を担う専門職としての理念と責任

### 2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育課程における「学校における実習」と「協働実践研究プロジェクト」・「カリキュラム開発基礎研究, 実践研究」は学校における実地での実践的体験学習とその記録化による省察学習として組織する。そして、実践研究としての省察を共通科目における教職 5 領域、コース別選択科目におけるそれぞれの学習重点内容に即して展開しながら、多様なステークホルダーとの多重メンバーシップによって省察を協働化（協働省察）し、間主観性と公開性を十全に担保した「実践の中の知」の理論生成に結びつける。

### 3. 学習成果の評価の方針

「実践の中の知」の理論生成の水準として、（1）学校等での学習拠点で推進した教育実践研究プロジェクトについて、学習科学・学習研究に基づく発展段階評価スケール「長期的で組織的なプロジェクト学習の展開とその省察・展望」により評価する。また、（2）教職キャリア段階（ラダー）の課題に応じながら教職専門性開発を生涯にわたって継続するための資質能力について、修了年度に作成する「長期実践研究報告」を省察的実践評価スケール「実践省察の重層性・発展性」により評価する。（3）「長期実践研究報告」の評価にあたっては外部の実践者・研究者、ステークホルダーの参加による外部評価を組織する。上記（1）（2）（3）

の評価を総合し、教職専門性開発を生涯にわたって継続するための資質能力の水準を判断する。